

備前市 事務事業 評価表

事業の概要		コード	03-03-01-02
事務事業名	歴史民俗資料館管理運営事業		
	根拠法令・要綱等	備前市歴史民俗資料館設置条例	
事業開始年度	平成3年～		
総合計画	大項目	基本目標	地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	基本施策	歴史と文化の輝くまちづくり
	小項目	施策	文化芸術の振興
	問合せ先	担当課(室)	生涯学習課
	職・氏名	文化係長 石井啓	
	電話	0869-64-1841	

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	備前市の歴史・文化などに興味のある人すべて。
目的(何のために)	郷土に関する資料の収集・調査・保存を行うと同時に、展示によって郷土の歴史や文化についての理解や文化財への認識を高める。
行政活動(どのような方法で)	常設展示による備前市の歴史文化の紹介。 テーマを決め、企画展の開催。 資料調査員による情報提供・調査。 備前歴史フォーラムの開催。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	備前市の歴史等についてわかりやすい説明や展示を行い、リピーターが増えるようにしていきたい。

事業の実績							
活動実績	実施項目		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	入館者数	人		1,853	2,217	2,561	
	備前歴史フォーラム延参加者数	人		173	184	84	
	企画展開催回数	回		2	2	3	
	事業費	直接事業費		千円	4,106	5,041	8,982
		人件費			12,680	4,340	770
		事業費計			16,786	9,381	9,752
	財源	国県支出金		千円			
受益者負担							
一般財源				16,786	9,381	9,752	
	必要人員	人		3.15	1.10	0.11	
結果指標	結果指標名		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	入館者数		説明	資料館への年間入館者総数			
	結果指標量	人		1,853	2,217	2,561	
	対前年比	%		-	119.6%	115.5%	
	活動コスト	円		16,786,000	9,381,000	9,752,000	
	単位当たりコスト	円		9,059	4,231	3,808	
結果指標	企画展等開催回数		説明	資料館で開催した企画展の年間の開催数			
	結果指標量	件		2	2	3	
	対前年比	%		-	100.0%	150.0%	
	活動コスト	円		1,625,000	1,639,000	1,055,000	
	単位当たりコスト	円		812,500	819,500	351,667	

事業の成果					
成果指標名	年間入館者数	式又は説明	年間を通した入館者数		
			17年度	18年度	19年度
成果指標量	1,853		2,217	2,561	
対前年比			119.64%	115.52%	
到達目標値	2,600	到達目標年度	平成25年		

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A-E>	B
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	備前市の歴史・文化については、市内外からの問い合わせも多い。今後も資料や情報の収集を行い、失われつつある郷土の貴重な資料などを保存し、後世に伝えていく必要がある。	
妥当性の評価	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある		
	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
行政活動	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である		
市の関与	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	効率性評価<A-E>	C
コスト	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難	コストについては削減に努めているが、館の維持管理費はこれ以上削減することが難しい。助成などを利用して事業を進めていくことも検討していかなければならない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
効率性の評価	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている		
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
職場	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	有効性評価<A-E>	B
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである	入館者数については、常設展示のリニューアル等により前年度より増加している。しかし、平成20年度から休館日が増えるため、今後より一層魅力ある展示等をしていかなければ、入館者数を増加させていくことは難しい。	
有効性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		

平成20年度の状況		説明	助成事業を検討しており、コストの削減に努めている。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 2,500	結果指標量	2
成果指標量	2,600		

総合評価		評価区分<A-E>	B	
平成19年度は、常設展示のリニューアルや、化石展の際ワークショップを行い、入館者数の増加につながった。平成20年度以降も企画展におけるワークショップ等を検討し、来館者に様々な情報を提供できるように努力していく必要がある。				

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	助成事業等を活用して企画展や資料調査を行う。	平成21年	コストの削減
妥当性	資料や情報の収集を行なう。	平成21年	問い合わせへの対応ができ、資料の散逸を防ぐことができる。